

めざす学校像 育てたい生徒像		児童生徒が、安心・安全にのびのびと学ぶことができ、保護者や地域に信頼され、期待に応えられる学校 自分を理解し、大切にすることのできる児童生徒。友達との関係をつくり、社会自立に向けての目的を持ち、主体的に行動できる生徒。	
本年度の重点目標		1	安全・安心な学校づくりに向けて、危機管理意識を高め、迅速に対応する。
(学校の課題に即し、精選した上で、具体的かつ明確に記入する)	2	特別支援教育の専門性及び授業力の向上を図る。	
	3	つけたい力を踏まえて指導内容を設定・組織し、教育課程の改善に取り組む。	
	4		
中期的な目標	・児童生徒の実態を踏まえた系統性・一貫性のある教育課程を編成する。 ・研修や授業改善を通して専門性の向上・授業力の向上に取り組む。 ・小学部段階から系統性を踏まえたキャリア教育を推進する。 ・特別支援教育のセンター的機能を発揮し地域とのつながりを活用した相談活動の充実を図る。 ・社会に開かれた教育課程を編成し地域に根ざした教育に取り組む。 ・災害時への対応に向けて地域と連携した取り組みを進める。		
学校評価の結果と改善方策の公表の方法	保護者の自己評価アンケート及び学校関係者アンケートの結果を学校運営協議会や育友会役員会で報告するとともに、保護者に文書で知らせる。		
達成度	A	十分に達成した。 (80%以上)	
	B	概ね達成した。 (60%以上)	
	C	あまり十分でない。 (40%以上)	
	D	不十分である。 (40%未満)	

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。
4 年度評価は、年度末（3月）に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
重 点 目 標					令和3年 2月 18日 現在		
番号	現状と課題	評価項目	具体的取組	評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善方策
1	感染症対策について迅速な情報共有と対応に努めているが基礎疾患のある児童生徒も多く、慎重な対応が必要である。教職員の危機管理意識を高く保ち、対応を徹底していかなければならないが、個々によって危機管理意識に差があり、対応の徹底が課題である。	情報共有を迅速に行い、児童生徒の安全の確保が十分に行えたか。	学校保健安全委員会の適切な開催と正確な情報発信 感染症予防対策の徹底	・学校保健安全委員会の効果的な開催 ・学校医や薬剤師との連携 ・感染症等に関する研修の実施 ・児童生徒への発達段階に応じた保健指導	・適宜学校保健安全委員会を開催し、コロナウィルス感染症対策について、対策チェックシートの作成やエブロン作成、給食対応など教職員にを具体的に提案することができ、教職員が一丸となって、取り組むことができた。 ・各学部で実態に応じた内容で、感染症対策の指導を行った。手洗いやマスク着用など意識を高めることができた。	A	・コロナウィルス感染症対策は今後も徹底して取り組んでいく。 ・ICT 機器を活用して、制限がある中でも、遠隔教育の取り組みを進める。 ・対象児童の増加を踏まえ、医療的ケアの安全な実施に努める。 ・ヒヤリハットやアクシデントの共有に一層努める。
2	全職員で授業改善にむけて実態把握の研修や公開授業研に取り組んできた。授業改善に向けての意識は高まっているが、教員間で特別支援教育の経験や力量に差があるので、授業づくりを通して、学校全体の専門性の向上を図ることが課題である。	児童生徒の実態を踏まえた「わかる授業づくり」ができたか。	個別の指導計画に基づいた授業実践と評価 公開授業研や研修の実施	・個別の指導計画を活用した、効果的な指導の実施 ・1人1回の公開授業の実施 ・全体研修・学部研修の実施	・学校全体として、「集団の実態把握と授業づくり」をテーマに小学部は「生活」中学部は「職業・家庭」高等部は「職業」の授業を取り上げ、授業づくりに取り組んだ。共通理解を図りながら授業づくりに取り組めた。 ・時間設定を行い効率的な会議運営に取り組んだが、複数の会議が連続することで負担感が増した。	B	・つけたい力を踏まえた教科指導の在り方について全教員で研修に取り組み授業力の向上に努める。 ・公開実践発表会を行い、実践について外部の評価を受けることで指導力の向上に取り組む。 ・外部人材を活用し、専門性の向上に取り組む。 ・教員の ICT 活用について教員の資質向上に取り組みながら活用を推進する。
3	児童生徒に「つけたい力」の検討や指導内容表の作成に取り組んできた。「つけたい力」についてのキャリア教育の視点からの見直しや「つけたい力」を授業改善に結びつけていくことが課題である。 類型に応じて教育内容を系統的に配列し計画的に実施していくことや各教科間の教育内容の関連を図る等の教育課程の改善が課題である。	つけたい力を学校全体で共有し、授業改善に活用することができたか。 教育内容表を作成し、教育計画作成に活用できたか。	「つけたい力」をもとにしたキャリア教育全体計画の見直しと指導案への活用 算数・数学・体育の教育内容表の活用	・キャリア教育全体計画の見直しの実施 ・教育計画作成及び評価時の教育内容表の活用	・昨年度から検討している「つけたい力」について継続して検討を進めてきた。学部間の系統性等についての検討を終えた。 ・類型について見直しを行い、共通理解を図った。 ・「生活」「職業・家庭」「職業」の教育内容表を作成し、研修の中で、今年度の履修状況を確認するとともに、来年度の教育計画作成時に活用することができた。	B	・教育内容表を活用して、既習内容の確認や今後の教育計画作成に活用し、指導の重複を避け、系統的な指導に取り組む。 ・つけたい力を踏まえ、キャリア教育の全体計画を見直し、小学部段階から卒業後を見通した指導に取り組む。 ・性に関する指導力向上のため研修や全体計画の作成に取り組む。 ・児童生徒の自己有用感を育成するため、地域と連携した取り組みを進める。

・保護者アンケートの結果では以下の3点が高く評価された。

- ・本校の児童生徒は明るくいいきいと学校生活を送っている。
- ・災害などの緊急時対応について適切に指導されている。
- ・校舎、校庭、教室の環境美化や整理整頓ができています。

一方、学校行事の充実や地域・保護者との連携、進路に関する情報提供、地域への広報活動、保護者の意見を取り入れることなどが課題として挙げられた。コロナ禍での学校行事の中止等の影響もあると考えられるが、地域や保護者との連携の強化は本校の課題であると考えます。また、教職員の挨拶の励行や人権意識の向上、規範意識の徹底等も課題として挙げられた。

・2月18日に開催した学校運営協議会では、主に進路指導の取り組みについて協議を行った。アンケートでは、教職員の評価は高いが、保護者や学校運営協議会委員の評価は低くなっていることについて、卒業後を見通した指導の充実や地域の企業との情報交換の場の設定、理解啓発活動等を積極的に進めていってほしい等の意見をいただいた。今後、地域貢献活動等を通して地域との連携を更に強化していきたい。